

## おわりに

2012年10月、Windows 7の後継として開発された Windows 8が発売されました。Windows Vista や7のログオン画面、壁紙などの模様がすべて単色の背景となり、Windows Aero の Aero Glass が廃止されるなど、これまでの Windows と比べデザインがシンプルとなりました。また、Windows 8が起動すると表示される画面は、Windows Phone と同様にアプリケーションソフトウェアのタイルが並べられています。さらにこの画面はタッチ操作を基本としているのです。基本 OS である Windows の大きな変更は、ユーザーである我々のコンピュータ活用スタイルの変化が大きく関係しているといつてよいでしょう。アメリカの調査会社「NPD ディスプレイサーチ」によると、2013 年度にはタブレットがノートパソコンの出荷台数を逆転する見通しであると発表しました。このことはタッチパネルで操作できる点や持ち運びやすさから、タブレットは ICT 機器の主役になってきていることを印象づけるものであると言えます。情報通信機器はまさに日進月歩であることを痛感させられるニュースです。

教育現場へ目を向けてみると、昨年度より小学校で、本年度より中学校で学習指導要領の全面実施が行われました。この中で「情報教育」は、情報化する社会の変化に学校教育が適切にかつ迅速に対応すべきであるという考えに立ち、誰もが情報を適切に活用させるための教育を学校教育全般にわたって実施するように位置付けられたと考えられます。また、「情報モラル」の育成や情報安全に関する知識や技能の習得に関する指導についても、これからの学校教育で推進する必要があるとしています。つまり、教育現場における「情報教育」の重要性が今まで以上に引き上げられていることに他ならないと言えます。

こうした中、情報教育委員会では平成 7 年度より愛媛県下の全小中学校における情報教育環境の現状把握を行っており、そのデータを各市町に公開するとともに整備計画等に役立てていただけるよう調査を継続しています。またこのデータの蓄積は、これまでの愛媛県の情報教育推進を考察する上で貴重なものとなっていることは言うまでもありません。集計された調査結果を元に、愛媛県情報教育研修会を開催しており、本年度は南予地区、伊方中学校を会場に行われました。国の情報教育に関する動向を講話いただくとともに、実践事例発表、「フューチャースクール推進事業」において活用されているタブレット PC を活用しての実技研修など、意義ある研修が実施できました。このような活動の積み重ねが愛媛県の情報教育推進の礎となると思われれます。

情報化社会はめざましい勢いで進歩しています。その波が教育現場にも押し寄せてきています。現状の ICT 機器を教育に有効活用する研究を推進するとともに、先を見通した先行的な研究も推し進めていかななくてはなりません。その役目を我々委員会は担っていると考えています。

本年1年間の活動に対する皆様のご協力に深く感謝申し上げますとともに、今後の愛媛の情報教育推進のために、ともに取り組んでいただくことを重ねてお願い申し上げます。

平成25年 3 月

愛媛県教育研究協議会情報教育専門研究委員会